



平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年11月7日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 キムラタン
コード番号 8107 URL <http://www.kimuratan.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 浅川 岳彦
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 木村 裕輔

TEL 078-332-8288

四半期報告書提出予定日 平成26年11月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	2,016	△4.4	△79	—	△83	—	△88	—
26年3月期第2四半期	2,108	△3.0	3	△85.5	△4	—	△7	—

(注) 包括利益 27年3月期第2四半期 △83百万円 (—%) 26年3月期第2四半期 △2百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	△0.11	—
26年3月期第2四半期	△0.01	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第2四半期	2,321	1,041	44.8	1.32
26年3月期	2,250	1,124	50.0	1.42

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 1,041百万円 26年3月期 1,124百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,900	2.6	40	34.7	30	96.2	20	233.7	0.03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期2Q	790,093,101 株	26年3月期	790,093,101 株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	83,380 株	26年3月期	83,118 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期2Q	790,009,820 株	26年3月期2Q	790,010,063 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる情報及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページの「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する情報	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(6) セグメント情報等	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
27年3月期第2四半期	2,016	△79	△83	△88
26年3月期第2四半期	2,108	3	△4	△7
増減率	△4.4	—	—	—

当第2四半期（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）におけるわが国経済は、金融・財政政策等の効果により企業収益や雇用情勢に改善がみられましたが、増税後の消費の回復の遅れや、円安に伴う原材料の価格高騰による景気の下振れも懸念されており、先行き不透明な状況となっております。

個人消費につきましては、エネルギー価格の上昇や生活必需品の値上げにより実収入は減少し、増税後の落ち込みからの本格回復にはまだ時間がかかるものと懸念されております。

このような状況にありますが、当社は「売上拡大による収益性の回復」を目指して、「新規売上の創出」「新規顧客の獲得」「新規取り組みの強化」の3点に重点的に取り組んでまいりました。

当第2四半期におきましては、新たな売上上の創出を目指して、新ブランド「BOBSON」ショップを展開、積極的店舗開発に取り組み、本年9月よりいよいよ出店を開始いたしました。

また、好調なネット通販をさらに拡大するべく、新規顧客の獲得と囲い込みを重点施策として、キャンペーン等による顧客数の拡大を図るとともに、システム強化によるお客様の買い求め易さ・利便性の向上にも努めてまいりました。

さらに、専門量販店卸につきましては、当秋物よりオリジナル・ブランドのアイテム数を大幅に増加させ、一層の取り組み強化による売上の拡大を図ってまいりました。

海外事業においては、日本製「安心・安全」の打ち出し、差別化により、中国、その他アジア地域における得意先数の拡大と1社集中からの分散化に取り組んでまいりました。

当第2四半期の業績は、前期における販路・価格政策の見直しによる総合スーパー卸取引縮小と円安による製品コスト上昇の影響が大きく、減収・減益となりましたが、概ね当初予想どおりの推移となりました。下期以降も当初の計画どおり、売上の拡大と収益回復に努め、通期業績予想の達成を目指してまいります。

売上高は、前年同期比4.4%減の20億16百万円となりました。前掲のとおり本年3月で総合スーパー卸取引を休止したことと、専門店受注の低迷が主な減少要因であります。一方、ショップ業態は店舗数の拡大により売上を伸ばし、さらに、ネット通販が前期に引き続き好調に推移し、専門量販店卸も大幅増となりました。

売上総利益率は、リテール事業の売上構成比が高まった結果、前年同期から1.5ポイント増の48.4%となりましたが、売上総利益額は、売上減に伴い前年同期比1.3%減の9億76百万円となりました。

販売費及び一般管理費につきましては、総合スーパー、専門店卸の物流費が減少となりましたが、新規出店に伴う人件費、家賃等の店舗経費の増加、広告宣伝・販売促進費の増加、ネット通販の売上増に伴う費用の増加等により、前年同期比7.1%増の10億55百万円となりました。

以上の結果、営業損失は79百万円（前年同期は3百万円の利益）、経常損失は83百万円（同4百万円の損失）、四半期純損失は88百万円（同7百万円の損失）となりました。

リテール事業

ショップ業態では、既存店ベースの売上高は、前年同期比0.2%減とほぼ前年なみの推移となりました。第1四半期は3.1%減と低調に推移しましたが、第2四半期は秋物の立ち上がり順調に推移したことなどにより2.9%増となりました。出退店については当四半期においてインショップ13店舗、BOBSONショップ13店舗を新規出店、一方4店舗の閉店を

実施し、当四半期末の店舗数は197店舗となりました。その結果、既存店売上高は前年を若干下回りましたが、全店ベースの売上高は、前年同期比4.0%増の12億7百万円となりました。

ネット通販では、顧客獲得キャンペーンの効果もあり、会員数は順調に増加いたしました。また、前期に引き続きアウトレット販売が好調な推移となり、売上高は前年同期比15.4%増の2億19百万円となりました。

以上の結果、リテール事業全体の売上高は前年同期比4.7%増の14億27百万円となりました。セグメント利益は売上総利益率が主として円安の影響により低下したことにより、前年同期比30.7%減の64百万円となりました。

ホールセール事業

ホールセール事業では、専門量販店でのオリジナル商品の提案アイテム数強化と、専門店における秋物以降の受注拡大を目指して得意先数の拡大に取り組んでまいりました。

当第2四半期では、価格・販路政策見直しにより総合スーパー卸が大幅減となり、専門店についても受注低迷により低調な推移となりました。一方、専門量販店については、当秋物よりオリジナル商品比率を拡充させたことに伴い、大幅に拡大いたしました。

以上により、当第2四半期の売上高は、前年同期比19.0%減の5億56百万円となり、セグメント利益は43百万円となりました。

海外事業

海外事業では、中国子会社の取り扱いブランドに、日本製の「愛情設計」を加え、「安心・安全」を切り口として、得意先の開拓に取り組んでまいりました。また、現地展示会を開催し、既存ブランドについても販路の拡大に注力いたしました。

当第2四半期においては、中国現地販売において新規得意先の獲得に取り組みましたが、既存先での落ち込みが大きく、売上高は前年同期比45.6%減の31百万円、セグメント利益は△7百万円となりました。

（2）連結財政状態に関する定性的情報

	前連結会計年度末	当第2四半期 連結会計期間末	増減
総資産（百万円）	2,250	2,321	71
純資産（百万円）	1,124	1,041	△83
自己資本比率（%）	50.0	44.9	－
1株当たり純資産（円）	1.42	1.32	△0.1
借入金残高（百万円）	637	744	106

総資産は前連結会計年度末と比較して 71 百万円増加し、23 億 21 百万円となりました。主な減少は現金及び預金 1 億 47 百万円であり、主な増加は商品及び製品 1 億 99 百万円であります。

負債は前連結会計年度末と比較して 1 億 54 百万円増加し、12 億 80 百万円となりました。主な増加は支払手形及び買掛金 68 百万円、借入金 1 億 6 百万円であります。

純資産は 10 億 41 百万円となり、前連結会計年度末と比較して 83 百万円減少しました。これは四半期純損失 88 百万円とその他の包括利益 4 百万円によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の 50.0%から 44.9%となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは 2 億 36 百万円の支出（前年同期は 2 億 82 百万円の支出）となりました。主として税金等調整前四半期純損失 85 百万円、棚卸資産の増加 2 億 13 百万円の減少要因と、仕入債務の増加 68 百万円の増加要因によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは 15 百万円の支出（前年同期は 15 百万円の支出）となりました。主な内訳は有形固定資産の取得による支出 12 百万円、無形固定資産の取得による支出 5 百万円です。

財務活動によるキャッシュ・フローは 1 億 6 百万円の収入（前年同期は 1 億円の支出）となりました。主な内訳は、短期借入金の減少 50 百万円、長期借入金の増加 1 億 57 百万円です。

（3）連結業績予想に関する定性的情報

通期の連結業績予想は前回予想（平成 26 年 5 月 9 日公表）を修正しておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	598	450
受取手形及び売掛金	659	621
電子記録債権	-	28
商品及び製品	739	938
仕掛品	3	18
原材料及び貯蔵品	31	30
その他	86	83
貸倒引当金	△9	△10
流動資産合計	2,109	2,161
固定資産		
有形固定資産	52	68
無形固定資産	19	21
投資その他の資産		
破産更生債権等	218	215
その他	66	68
貸倒引当金	△216	△214
投資その他の資産合計	68	69
固定資産合計	141	160
資産合計	2,250	2,321
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	229	298
短期借入金	80	30
1年内返済予定の長期借入金	177	226
未払法人税等	10	4
ポイント引当金	6	8
その他	236	221
流動負債合計	741	788
固定負債		
長期借入金	379	488
資産除去債務	1	1
その他	2	1
固定負債合計	384	492
負債合計	1,125	1,280

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	903	903
資本剰余金	221	221
利益剰余金	△7	△95
自己株式	△4	△4
株主資本合計	1,113	1,024
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	3	10
為替換算調整勘定	8	5
その他の包括利益累計額	11	16
純資産合計	1,124	1,041
負債純資産合計	2,250	2,321

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	2,108	2,016
売上原価	1,118	1,039
売上総利益	989	976
販売費及び一般管理費	985	1,055
営業利益又は営業損失(△)	3	△79
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	0	0
為替差益	-	0
その他	1	1
営業外収益合計	1	2
営業外費用		
支払利息	5	4
支払保守料	0	1
為替差損	0	-
その他	2	0
営業外費用合計	9	6
経常損失(△)	△4	△83
特別損失		
固定資産除却損	-	1
特別損失合計	-	1
税金等調整前四半期純損失(△)	△4	△85
法人税、住民税及び事業税	3	2
法人税等合計	3	2
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△7	△88
四半期純損失(△)	△7	△88

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△7	△88
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	1	7
為替換算調整勘定	4	△2
その他の包括利益合計	5	4
四半期包括利益	△2	△83
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△2	△83
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位:千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△4	△85
減価償却費	10	11
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△7	△0
ポイント引当金の増減額(△は減少)	0	1
受取利息及び受取配当金	△0	△0
支払利息	5	4
為替差損益(△は益)	0	△0
固定資産除却損	-	1
売上債権の増減額(△は増加)	129	8
たな卸資産の増減額(△は増加)	△237	△213
仕入債務の増減額(△は減少)	△33	68
破産更生債権等の増減額(△は増加)	9	3
その他	△143	△24
小計	△270	△224
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△6	△4
法人税等の支払額	△5	△7
営業活動によるキャッシュ・フロー	△282	△236
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△10	△12
有形固定資産の売却による収入	0	-
無形固定資産の取得による支出	△0	△5
投資有価証券の取得による支出	△7	-
その他の収入	5	4
その他の支出	△2	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△15	△15
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	50	30
短期借入金の返済による支出	△77	△80
長期借入れによる収入	-	250
長期借入金の返済による支出	△73	△92
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△0	△0
自己株式の取得による支出	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△100	106
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	△2
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△394	△147
現金及び現金同等物の期首残高	771	598
現金及び現金同等物の四半期末残高	377	450

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間（自平成25年4月1日至平成25年9月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	リテール 事業	ホールセー ル事業	海外 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,362	687	58	2,108	—	2,108
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,362	687	58	2,108	—	2,108
セグメント利益又は損失 (△)	93	53	1	148	△144	3

(注) 1 セグメント利益の調整額△1億44百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間（自平成26年4月1日至平成26年9月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	リテール 事業	ホールセー ル事業	海外 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,427	556	31	2,016	—	2,016
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	10	10	△10	—
計	1,427	556	42	2,026	△10	2,016
セグメント利益又は損失 (△)	64	43	△7	100	△179	△79

(注) 1 セグメント利益の調整額△1億79百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。